

いしかわ繊維大学 上級講座

日時	講師プロフィール
2/12 (木)	<p>「空間デザイン×Fabric=開発ヒント」</p> <p>株式会社 ODO Designer/Producer 折原 美紀 氏</p> <p>https://o-d-o.tokyo</p> <p>日本商環境デザイン協会(JCD)副理事長 ミナトデザイン会議主宰 ツアーリングスクール現在地 共同主宰</p> <p>人が創るインテリアデザイン。だからこそ沢山の想いでデザインを満たし人々への心を動かしたい、そんな想いで日々活動している。商業空間の背景にある環境、業態開発、オペレーション、ヴィジュアル制作などトータルでの提案を行うことを心がけている。飲食業に関しては「餃子の王将」女性向けブランド「GYOZA OHSHO」や同社海外案件のプロデュース及びオペレーションフォローも行なった。とりわけレジャーホテルのデザインに関しては 2000 ルームを超える実績を重ねている。</p> <p>最近ではヴィジュアルだけではなく、本質的な意味踏まえたデザイン構築を模索するようになり、サステナビリティも視野に入れつつ、その地域で出会う様々な手仕事の方々と共にプロジェクトをすることで、そこでしか生まれない「地産地消のデザイン」の構築を心掛けて活動している。</p> <p>今回の講座では、建築空間デザインの中で素材がどのように活用されているのか、また今後どのような素材ニーズがあるのかをお話し頂きます。</p> 
2/18 (水)	<p>「繊維強化複合材料の今後の活用展望について」</p> <p>信州大学 繊維学部 先進繊維・感性工学科 准教授 奥村 航 氏</p> <p>FRP の性能を最大限に引き出すためには、用途に応じて繊維基材の形態や樹脂・添加剤の種類を選定して、FRP として成形し、その評価する必要があります。合織のみならず天然素材を積極的に活用し、様々な繊維技術を駆使して現在 FRP の開発やリサイクル技術の確立に取り組んでおります。</p> <p>また、FRP はインフラ、自動車産業、海洋産業、スポーツ用品などに広く利用されており、その適用範囲は年々拡大しています。今後、環境負荷を低減、持続可能な社会の実現に貢献すると共に、地域の農林産業や製造業等の活性化を促進し、地域経済全体の持続的成長にも寄与できると考えています。</p> <p>今回の講座では、研究室にてさまざまな研究課題に取り組んできた中で見えてきた繊維複合材料の今後の活用についてご講演頂きます。</p> 

	<p style="text-align: center;">「畑が教えてくれる開発の視座」</p> <p>サリゲナク Designer / 農業従事者</p> <p>東出 結城 氏</p> <p>https://sarige-naku.com</p> <p>Sarigenaku コンセプト</p> <p>素材の特徴を引き出す目的から生まれる畳んで折っての簡易構造と誰の目にも楽しく映るデザインは折り紙を彷彿とさせます。付加価値ではなく実際に感じ取れる価値に重きを置きパタンナーとして培ってきた技術や経験を活かし洋服のみならず眼鏡、靴、靴下、鞄まで幅広く展開しています。</p> <p>2023年に東京・秋川渓谷に綿花栽培のための山畑を取得、2024年よりアトリエを建設・移転、2025年にブランド名を「サリゲナク」に変更。</p> <p>(金) 株式会社 1200 代表取締役 / Director</p> <p>関戸 遼 氏</p> <p>ツアーリングスクール現在地 共同主宰</p> <p></p> <p>三宅一生氏の広範なデザイン活動や FINALHOME に代表されるファッショニエ由来の表現の多様性に惹かれ、大学卒業後、デザイナーズアパレルに入社。販売、経営企画、海外事業、MD、EC、システム、ブランド責任者、執行役員など幅広く経験。その後、デザイン＆アートフェスティバルの企画運営へも参画した経験を持つ。世の中に新しい概念を提示するコンセプトモデルに代表されるような、既存のジャンルにとらわれない、新しい視点での開発を模索している。様々なつくり手が持つくる力をこれまでとは違う方向性で發揮してもらうプロジェクトを心がけている。</p> <p>今回の講座では、デザイナーでありかつ現在農業従事者でもある東出氏とアパレルデザイナーとして活躍してきた関戸氏とが農業に必要な機能性・ファッショニエ・素材ニーズについて語って頂きます。</p>
3/5 (木)	<p style="text-align: center;">「日本の各繊維産地の現状と今後の展望」</p> <p>ダイセン株式会社 記者</p> <p>星野 公清 氏</p> <p> 日刊 繊維総合紙 繊維ニュース</p> <p>1998年にダイセン(株)に入社、繊維専門誌「繊維ニュース」の記者として合織メーカー、綿紡績、綿織物産地、タオル産地、繊維機械メーカーなどを担当してきた。2008～2009年上海駐在。2013年から中国企業向けの中文媒体「日本繊維情報」、英文媒体「ATB」を担当。2019年から繊維ニュースの北陸担当になり産地を取材している。</p> <p>今回の講座では北陸の合織産地のみならず他産地の状況がどうなのかをお話し頂きながら、今後の日本の繊維産業の展望についてご講演頂きます。</p>